



第148号
福島大学
人間発達文化学類
同窓吾峰会 会報

文化の発展と歴史



同窓吾峰会長
峯 島 和 彦

私は以前から美術館や博物館を訪れるのが好きで、展示案内を頼りに出かけています。コロナ禍でここ二年は行けませんでした。令和元年に東京国立博物館で天皇御即位記念特別展として正倉院の宝物展が開催

されることを知り、早速上京して見て来ました。この様な普段見られない展示は地元の奈良でも行われることはなく、保存のため今後一般公開はできないだろうということでした。展示の詳細は省略しますが、私達

がかつて使用した教科書等に載っている国宝級の貴重な物が数多く展示されていきました。遠く中東の国からシルクロードを経て我が国に渡来した宝物が、今も輝き、色褪せずに保存できたことは驚くべきことです。この様に長い間良い状態で保存されて来たのは、世界中を見てもこの例だけだと言われています。

法隆寺五重塔の心柱は長い間伝わる有名な耐震技術で、東京スカイツリーの免震構造にも取り入れられています。これらの建築技術は初め大陸から伝わりましたが、その後改良され独自の技術開発を加えて代々修復しながら発展したもので、大陸にはこれらに匹敵する木造建築物は現存しません。今では中国の観光客

ルに到達し保存されている例が数多く見られます。前述の様にそれらの本物に出合っただけで説明を聞き、その価値と併せて発展した文化の歴史の経緯を知ることが大変参考になるものです。そこから新しい発見が得られ、年を重ねた私達でも知識や体験の幅が広がり、心身のリフレッシュにつながるものと思えます。

また、私達が使う漢字は中国発祥のものを奪い取る様に使ってきたものだ、という話を一部で聞きますが、これは全く的外れの考えだと言えます。我が国に漢字が伝わり、始めは漢字の音が固有語にあてた万葉仮名

我が国には世界最古となる木造の建造物が多く現存しますが、大阪の金剛組という企業は、聖徳太子の聖地と言われる四天王寺の建設に携わり、以来社寺建築の技術を飛鳥時代から千数百年の間守り伝えてい

が我が国の貴重な文化遺産を見学して、その技術水準の高さや保存状態の素晴らしさに改めて驚いているという状況です。この様に国内には大陸などから伝播した文化がその後独自に発展し、高いレベ

歴史的背景をよく知ることが私達が持つべき教養の一部だと思えます。身近な地域の伝統文化がどの様に継承されているかを知る、文化遺産となる名所・旧跡の歴史的背景を知るなど、自らの教養の質を高めることが大切であると考えています。



福島大学のコロナ対応 人間発達文化学類長 初 澤 敏 生

吾峰会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、大学・学類の運営に対して様々なご支援を頂戴しておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今年度も昨年度に引き続き、コロナに翻弄されることになりました。ただ、昨年と異なることは「コロナとの付き合い方」がだんだんとわ

かってきたことだと思えます。今夏までの第五波の患者数は昨年をはるかに上回るものでしたが、ほとんどの授業は対面授業を維持することができました。本稿を執筆しております十月末におきましては、コロナの新規感染者はわずかにとどまり、学内では学外者立ち入り禁止という制約つきながら、「第五七回福大祭」が開催さ

れております。しかし、約二年にわたり、学生生活に大きな制約がかかってしまったことは大変残念なことでした。今後に備え、大学の危機管理体制を再検討する必要があることをひしひしと感じております。

今回のコロナ禍において特に大きな課題となったのがワクチン接種です。福島大学では、残念ながら医師や看護師の手配ができず、職域接種を行うことができませんでした。夏休みに入ってから福島市のご配慮で集団接種に混ざっていただ

き接種することができましたが、この「出遅れ」に関しては各方面から多くのお叱りを頂戴することとなりました。吾峰会の皆様方にもご心配をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。一方、ワクチンを巡っては

私が思い出したのは、十年前の原発事故後の状況です。あの時も「福島は危険だ直ちに避難しろ」という声と「放射能レベルは問題ない。大学を再開しろ」という相反する声が寄せられました。両者に共通しているのは従来の科学ではとらえることができない災害に直面したこと。我々は放射能に対して、コロナに対しては向かわなければなりません。まな情報を収集し、自ら判

須賀川大会の中止に至る経緯について



須賀川大会実行委員長

古田 浩

六月二十四日、県本部の皆様へ須賀川市においていただき、須賀川大会の事前打合せ会を行いました。

当日の会場も見ていただき、後は実行委員会で分担しながら準備を整え、十月二日を迎えるつもりでした。

案内状もできあがり、八月中には発送する予定で準備を進めていた時、会場として予定していたグランシア須賀川から連絡が入りました。

「九月から十一月いっぱい、須賀川市の新型コロナワクチン集団接種会場になることになりました」と。

須賀川大会の準備は、昨年のいわき大会の中止が決まり、千葉前会長から「来年度は須賀川でお願いしません」との電話をいただいた時から始まりました。

これまで、福島大会等の資料集めから、期日・会場の決定、大会までの計画や実行委員会の組織づくり、講演会の講師の選定等、コ

ロナ禍でなかなか会議が開けない中、電話やメール、FAX等で情報交換をしながら準備を進めてきました。

特に苦勞したのは、第三波、第四波と猛威を振るう新型コロナウイルスに対応した計画案の作成でした。

当初は、これまで同様、感謝状贈呈式・開会行事・講演会・懇親会の内容で検討を始めましたが、感染の勢いが止まらない中、「懇親会なし」に変更しました。

その後、三密回避のために参加者数を半数に、さらに二時間以内でできるようにと計画を変更し、ようやく「これなら各支部の皆様を安心してお迎えし、安全・安心な大会を開催できる」と思った矢先のことでした。

ここまで準備を進めてきていたので、急きよ他の会場も検討しましたが、グランシア須賀川以上の会場は見つからず（須賀川アリーナは他行事で、須賀川市文化センターは工事中で使用できず）、また、その後の第

五波の状況も考えて、中止の判断をしました。二年ぶりの県大会の開催は実現できませんでしたが、県南地区の各支部長の皆様には、いつも適切な助言と励ましの言葉をいただきました。また、このような状況の中、快く会議の会場を提供していただくとともに、献身的に準備を進めてくださった須賀川市教育研修センターおよび事務局の大東小学校、白江小学校には、心から感謝しております。

最後に、コロナ禍が終息し、来年度の会津若松大会の皆様と三年ぶりに再会できることを、心から願っております。

(昭五四卒 岩瀬支部)



千葉前会長らに感謝状!!

昨年度から、コロナ禍対策により評議員会も理事会も須賀川大会も中止になっていた。今年度は、役員交代が多くあり、感謝状贈呈式のないため、次の通り設定、実施された。



令和3年度感謝状贈呈者

役職	氏名	功績	本来の贈呈日
吾峰会本部 会長	千葉金之助	H29～R2年度 会長(計14年間) H19～28 理事・常任理事歴任	R3.10月 須賀川大会
吾峰会本部 副会長	柳沼 秀雄	H28～R2年度 副会長(計6年間) H27～30 郡山支部長	R3.10月 須賀川大会
吾峰会本部 副会長	湯野尻 強	H25～R2年度 副会長(計9年間) H24～R1 会津支部長	R3.10月 須賀川大会
吾峰会本部 副会長	片寄 秀雄	H29～R2年度 副会長(計9年間) H24～R2 いわき支部長	R3.10月 須賀川大会
吾峰会本部 常任理事	高野 光揚	H18～22年度 幹事(計15年間) H23～R2 会計部長	R3.11月 第2回理事会
吾峰会本部 常任理事	矢筈 清孝	H23～24年度 幹事(計10年間) H25～R2 組織部長	R3.11月 第2回理事会
吾峰会本部 理事	込堂 啓子	H10～R2年度 理事(23年間) 130周年実行委員・組織強化委員	R3.11月 第2回理事会

支部長のバトンタッチ!! I

感謝と集・語・大



新潟県支部長
高橋 信

このたび同窓吾峰会新潟県支部長を仰せつかりました。紙面をお借りして、特別にお世話になった先生への感謝と当支部の在り方について書きとめ、就任のあいさつに代えさせていただきます。

一 感謝

震える手でミスタツチしながらピアノを弾き終えた私に「バイエル六十八番を弾けたので可」と言って下さった仁志田先生の温情。提出日まで妥協を許さず卒論指導を下さった不破先生の厳しさ。この二つが、私の指導姿勢の根本となつています。深く感謝している次第です。

二 集・語・大

当支部は、上・中・下越、佐渡、新潟の五ブロック編制です。七月の役員会は、本部からいただいた吾峰会旗を彷彿とさせる青空の下での開催となり、今年度の活動計画案を決定しました。会員の皆様には、コロナ禍で総会が開催できないため、要項を送付し、内容の

確認をお願いしました。その際、返信用葉書を同封し、書ける方に近況等を寄せていただくこともお願いしました。後日、メッセージ集として届ける予定です。コロナ収束後の再会を促すきっかけになることを願うのであります。

また、経費削減のため、役員同士の連絡は、遅ればせながら「原則メールで」としました。これらのアイデアは、役員の発案をもとに共通理解し、実施しました。今後も支部顧問の皆様への指導をいただきながら、役員との知恵と人脈とをフルに活用し、支部活動の充実・発展に努めます。目指すは、より多くの会員が集い、思い出や近況を語り合い、学生歌を大合唱する支部活動の実現です。

本部の皆様からのご指導・ご鞭撻をお願いいたします。(昭四九卒)

支部長を退任するにあたって



前新潟県支部長
堀 勝彌

コロナ禍もようやく退潮のきざしを見せ、気持ちの

面で少しばかり、ホッとしています。令和二年度に続いて今年度も支部総会を中止せざるを得ませんでした。昭和五十九年度に発足した新潟県支部も、地域が広く、会員名簿も十分揃っていません。そのため、支部総会や役員会が定期的に開催できませんでした。ところが、平成二

十六年度に同窓吾峰会より創立百三十周年を記念する会員名簿が発行されたことを契機に、翌二十七年から二年間、会員交流会を実施することが出来ました。特に、二十七年の拡大会員交流会では、当時の事務局次長の峯島和彦氏のご出席をいただき、物心両面からご支援をいただいたことが支部の発展と充実につながりました。

平成三十年の支部総会より、会員による実践発表をしていただいたところ、大変好評でした。この企画は、令和元年度にも実施しましたので、是非、継続をお願いしたいと思います。令和二年度に佐渡在住の中川志枝様に賀寿の証書をお届けした際、「旧友の名前を見つけたとき、福島で過ごした青春時代が昨日のように思い出されました。」と話されました。私たち会員は、

みな中川さんと同じ気持ちです。そして、一日も早い東日本大震災の復興を願っています。

支部が再スタートしてから七年、会員の皆様のご協力を得て、支部総会も充実してきました。また、支部会報「吾峰新潟」でも会員の広場を設けるなどして、支部の結束と絆を強めてきたところです。なお、支部の企画・運営等については事務局長の佐藤八郎氏から大きなお力添えをいただきました。感謝申し上げます。

最後に、新潟県支部の皆様、同窓吾峰会本部の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございます。 (昭三四卒)

新支部長になって



相馬支部長
島 義一

学校現場を離れて早いもので六年がたちました。その間、相馬市教育実践センターで主に教員の研修に微力ではありますが携わって参りました。しかしながら、諸々の事情により、まったく諸団体の役から遠ざかっておりました。三月初旬、同窓吾峰会相

馬支部長より、新支部長の依頼の電話がありました。今まで相馬支部の役を経験していない私にとって荷が重い依頼でしたが、相馬支部長の熱いお言葉と、何か皆様に恩返しをしなければと思い、清水の舞台から飛び降りる気持ちで内諾することになりました。

現在、相馬支部においては、現職会員二一四名、退職会員二五〇名の支部会員がおります。年々会員数の減少が顕著になってきました。小学校区毎の連絡員(世話人)も高齢化が進んでいます。高年齢化が進んでいますが、会員の皆様が母校並びに同窓吾峰会に愛着と誇りを持ち続けていることに強く感銘を受けております。

今までは、支部会員として、会報にさつと目を通すぐらいで、賀寿の贈呈のためにご本人との連絡や会員の計報に関する手続き、告別式の参列などまったく他人事でした。副部長、そして事務局の努力なくして運営ができないということも身をもって感じております。特に、会員の計報の把握については、私だけでは漏らさず確認するには、あまりにも非力です。事務局や連絡員の方はもとより広く会員の皆様にも相馬支部

の結束の強さで情報の提供をいただき、なんとか就任以来、無事に役目を果たせております。

今年は、未曾有の災害と言っても過言でないコロナ禍の中、支部総会が開催できず、紙上での報告・決裁でした。告別式も家族葬が多くなってきました。一日も早く、正常な日常生活に戻れることを強く願って止みません。

今後は、コロナ禍に負けず同窓吾峰会並びに相馬支部の発展のために、皆様の力を借りながら、精一杯努力して参りたいと思いますので、宜しくお願いいたします。(昭五四卒)

安達・栗原支部の新役員紹介

安達支部	栗原支部
△支部長 高島 現	△支部長 幸新一
△副支部長 菅野真智子	△副支部長 俊新二
日下部善己	野藤野猪
小泉裕雅	
大内信一	
原田雅史	
佐藤史浩	佐藤 一博
△事務局長	

リーダーが想う学校現場の今

今年度も小・中・高・大学のリーダーは吾峰人!!

県内の中学校教育現場の現状と課題

福島県中学校校長会会長
福島市立福島第一中学校長

佐藤 浩 哉

現在の中学校教育現場には課題が山積んでいます。特に全ての教育活動にコロナ対策が必要であり、活動実施の可否の判断も迫られることが多々あります。昨年度に比して今までの知見を活かし、学校行事等も実施されることが多くなりましたし、中体連の各大会も開催されています。文化部のコンクール等も実施される見込みです。今後も大会やコンクールが実施できるように、各学校で、三密回避、手指消毒、マスク着用など新たな生活様式について継続的に指導をしながら教育活動を推進しなければなりません。

そのような状況の中で、学力向上はもちろんです。GIGAスクール構想による一人一台タブレットに係る研修機会の確保、SNSなどのネットに関わるモラル教育、いじめ、不登校の問題などもあります。さらには、働き方改革に係る部活動の在り方について

そのような状況の中で、学力向上はもちろんです。GIGAスクール構想による一人一台タブレットに係る研修機会の確保、SNSなどのネットに関わるモラル教育、いじめ、不登校の問題などもあります。さらには、働き方改革に係る部活動の在り方について



リモート授業

も新たな施策が示されました。それぞれ一つ一つが大きな課題であります。目の前の生徒のために、現状で最善の教育を推進していきます。

そのような中でも、危惧されていることのひとつに、震災から十年が過ぎ、多くの生徒が震災を覚えていないという状況となっており、震災の風化が始まりつつあるのではないかと感じています。そこで、防災教育や放射線教育に重みを置いて教育活動の必要性について改めて各中学校で考えなければならぬと校長会でも話し合うことが多くなりま

した。本校でも今年度から放射線教育を現職教育で取り組み、全教員で研究を進めようとしており、まずは、二年生が震災の語り部の方からお話を聴いたり、放射線に関する大学教授の授業をリモートで受けたりしました。今後、震災伝承館に校外学習で出かけることも考えています。福島県人として放射線について説明できる人材を育成しなければなりません。

コロナ禍により、各種研修会や会議がオンライン開催や中止となることも多い状況ですが、各中学校では、校長がリーダーシップを執り、今までの知見を活かし、情報を共有し、教育活動の充実のため挑戦し続けています。



修学旅行 (日光東照宮)

お詫び (こゝまでは、一四七号の原稿として六月九日に送付して頂きました。しかし、文明の利器の不具合と編集子の不手際で掲載できませんでした。深くお詫びし、改めて今号の原稿をお願いしました。ご了承の上、引き続き、十月に頂いた次からの文章をお読みください。

「コロナ禍における学校教育活動」まん延防止等重点措置期間、集会等の活動はほとんど行われない。体育館での発表を各教室でオンラインで視聴する生徒会役員立候補者立会演説会や中体連新人大会選手激励会等が行われました。まん防が解除となって十日間、やっ

と学校の行動基準がレベル1となり、宿泊を伴う行事も行えることになり、十月中旬には校内合唱コンクールを実施しました。また、感染防止を行いながら、修学旅行を十月末に二泊三日で日光、河口湖方面で実施しました。コロナ禍だからこそ体験活動の重要性を改めて強く感じます。生徒の見えない口も口角が上がっ

たはずです。生徒にとっての最善を考えての実施ですが、保護者の皆様の理解がなければなりません。生徒とともに感謝するばかりです。今後もしばらくコロナ禍での教育活動となりますが、命を守り、健康を保つて、教育活動の充実に尽力してまいります。

「スクリーンタイム (以下ST)の長時間化」STは、SNS、動画、ゲーム、さらにテレビなどの視聴も入れた合計時間ですが、何時間になっているでしょうか。STが長時間化すれば、必然的に読書や友達と直接話をする時間は減ることになります。さらに睡眠時間も減ります。特にSNSやゲームは脳内でドーパミンを頻繁に放出するため、手放せなくなると言われています。睡眠中

行われる脳の整理も睡眠時間の減少でできなくなるわけですから、集中力が低下したり、記憶することも難しくなったりします。子どもが落ち着いて話を聞けなかったり、しばらくの間、机に向かうことができなかつたりすることは、いかと心配するとともに、情報モラル教育をさらに推進しなければならぬと考えています。



校内合唱コンクール

令和三年度「ホームカミングデー」

福島大学学長 三浦 浩 喜

皆様方には平日より本学の教育研究に多大なるご理解・ご協力をいただいておりますこと、この場を借りて深く御礼申し上げます。

次頁へ

前頁より

さて、新型コロナウイルスの感染が確認されてから丸二年になろうとしていきます。本学では、感染拡大防止と学生教育を両立させようと努力して参りました。昨年度の前期は、オンラインで授業が始まり、様々な事業もことごとく自粛を余儀なくされましたが、昨年後期から現在に至るまで、ほぼ対面で授業が進められております。

サークル活動は許可制をとるなど、やはり通常の形には程遠い面もありますが、感染状況を考慮しながら学生たちの文化が途切れることのないよう、活動を支援していきたいと思っております。

大学の取組みについてお話をいたします。まず教育面ですが、本学の弱みとされていたICT環境を強化いたします。回線を太くし、学内のインフラを刷新するとともに、来年度からは、BYOD、すなわち学生が自分自身のパ



三浦学長

ソコンを使って、授業を受けたり、研究を進めたりするスタイルを浸透させていきます。これから必須となるSTEM教育やデータサイエンスへの取組みも始まりました。

また、震災以来、高く評価されてきた震災被災地に足を運んで探求活動を行う「ふくしま未来学」「むらの大学」の規模をほぼ倍に拡充いたします。学生のキャリア教育や就職支援を強化するために、新たに「キャリアセンター」の設置準備も進めています。

教育組織では、令和五年の四月に食農学類に新たに大学院を設置することを構想中で、全学をあげて地域課題に立ち向かうイノベーション人材を育成し、地域に存在感のある大学を目指して様々な検討を行っております。

研究面では、本年四月に食農学類の附属施設として「発酵醸造研究所」を開設いたしました。すでに日本酒の醸造に適した種苗の開発などに着手しております。また、これまで震災被災地の支援を続けてきたうつくしまふくしま未来支援センターと地域創造支援センターを統合させ、来年の四月には「福島大学地域未来

デザインセンター」を開設する運びとなっております。これまで、それぞれに進められてきた地域支援を一本化し、県内外の諸機関との連携を強化して、本学の特徴をより強く打ち出していきます。ご期待いただければと思います。

希望をもち、変革を楽しむ

「ウイズコロナ」時代の学校現場



福島県小学校長会副会長
福島市立清明小学校長
岩下 聡

今、コロナ禍にある学校は、「これまで通り」では立ち行かず、その時点での「最適解」を導き出すことが求められています。この傾向は、東日本大震災及び原発事故による複合災害が起きた時から、より一層強まったと認識しています。

そして、学校は、この「最適解」を導き出す営みに苦慮しているのも事実です。要因の一つは、「刻々と変わる状況」です。学校での新型コロナウイルス感染症への対応は、学校の行動基準である「レベル1」で行っています。しかし、「レベル2」になると「感染リスクの高い学習活動」が制限されます。

これからの本学は、新しいプロジェクトに積極的に取り組み、学内の組織も整備し直し、震災十年で得た「強み」を活かし、新しい福島大学を作っていきたいと考えております。是非、これからの福島大学を応援していただければと思います。

岩下 聡

今年度の本校の運動会では、その前日の夕刻に「明日からレベル2になる」という連絡がありました。「レベル1」からの突然の変更を受け、「レベル2」における運動会の在り方の「最適解」を短い時間で求め、対応しました。

要因の二つ目は、「情報の広域化・多様化」があります。誰もがスマホを持ち、瞬時にネットから情報を得られる時代になり、保護者の考えは多様化しています。ですから、導き出した「最適解」を皆の「納得解」へと高める営みが必要です。本校では、独自の「巣ごもり宣言」を出し、本校の児童が本校教職員以外の者



タブレット授業 i



タブレット授業 ii

と接触する機会を制限する期間を設けました「学校だより」を通して、その趣旨を説明しましたが、批判の声はなかったことから「納得解」として受け入れていただけたと考えています。そして、この「最適解」を導き出す営みは、結構「楽しい」営みでもあります。

それは、「現状を打破し高みに上る」営みでもあるからです。それを支えるツールとして、今は「一人一台端末」があります。福島市では、九月には各校の、十月には全市一斉の「オンライン授業の日」を設け、家庭で一校時目の授業を「オンライン」で受け、その後登校するという試みを行いました。これで、家庭においても学校とつながることができそうです。

この外にも、本校では試みとして、「オンライン読み聞かせ」「オンライン児童

この一年で、学校現場は劇的に変わりました。対面でしか成立しなかった授業が、離れていても受けられるようになったのです。この変革は「教育界の令和維新」とも呼べるものです。そして、子どもたちは、この流れにすっきり順応し、教師の先へと進んでいます。「新型コロナウイルス感染症」がもたらしたものは、決して「負の面」だけではなかったのです。これからも「最適解」を求め、その先には確かな「希望」が待っているものと信じています。

(昭六〇卒 福島支部)

支部長のバトンタッチ!! II

支部長を退任して



前相馬支部長
星 俊

平成二十六年の吾峰会相馬大会が無事終了し、ホッと一息ついた時、長谷川伴七郎支部長より支部長の大任を仰せつかりました。

思い返せば、長谷川支部長の下、開催された相馬大会。事務局長のご指導や各係からの提案でスムーズに進められた実行委員会や開会式から閉会式まで同一の会場で実施となり、準備等の待ち時間もありませんでしたが、参加された皆様のご協力で有意義で楽しい大会になったことが甦ってきます。

吾峰会大会を実施してない支部長として、次回の相馬大会の「時期」と「内容」が気がかりとなっております。

県内外の各地で生活しており、会報も郵送。

相馬地方の生徒は交通の便から、福島より仙台の大学を選択。

二つ目の課題として、三密を避けるためにも、より広い会場が必要と考えます。相馬支部としては、長期的な計画に基づいた対応が不可欠であり、そのためにも、吾峰会大会の基本的構想を早めに提示していただきたいと願っております。

就任の四年間、相馬支部としての特別な行事等の開催はありませんでした。特に、最後の一年間は、コロナ禍の中で会議等も開催できずになりましたが、新しい生活様式の中で、会員の皆様と時折声を交わせたことが大きな喜びでした。

終わりに、相馬支部の皆様はじめ本部事務局・役員の皆様には大変お世話になりました。心より御礼と感謝を申し上げます。

(昭四六卒)



相馬大会であいさつした相馬支部長 星 俊

いわき支部長に就任して



いわき支部長
金内 三郎

令和三年六月四日に、今年度第一回目の吾峰会いわき支部役員会が開催される予定が、新型コロナウイルスの影響で、文書決裁となってしまいました。規約により役員会をもって総会にかえることができるといふことで、役員会が実質的な総会といふことになりました。

これより、片寄秀雄支部長からバトンを受ける形で支部長を引き継ぐことになりました。いわき支部は会員数も多く、大きな組織であり、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

前任の片寄秀雄支部長は永きに亘り、いわき支部の吾峰会員をまとめ、中心となって活動されてきました。まだまだご活躍さ

うことですが、一身上の都合という事で私がバトンタッチということになりました。「お前で大丈夫か?」という声ばかり聞かされてき

きたいと考えています。令和二年度には、同窓吾峰会のいわき大会が予定されていましたが、コロナ禍で中止となってしまいました。

実行委員会を立ち上げ、組織の役割分担を割り振りまで至らず、自然消滅となってしまい、とても残念でした。前回、いわき大会の指揮を執られた支部顧問の故吉岡榮一先生からの助言は大会の企画運営の中心となる支部三役を勇気づけてくれました。ここに吉岡先生のご冥福をお祈りいたします。

ウィズコロナ、アフターコロナ、一日も早く同窓吾峰会の会員が一堂に会し、旧交を温め、母校の発展を祈る会の再開ができる日の訪れることを切に願うものであります。(昭五三卒)

支部長を退任するにあたって



前いわき支部長
片寄 秀雄

昨年、いわき支部は、七方部現職と退職した会員合わせて、六百余名で行事等を行ってまいりました。支部長を九年間務めてきた中で、東日本大震災など大きなできごとがありました

が、各学校の現職会員の温かいご協力のもとに大過なく任務を果たすことができました。これもひとえに皆様のお力添えがあったからと感謝しております。

昭和四十年相馬の新地小を始めに飯館村と相馬で六年間、故郷のいわきに赴任して、大野一小、平二小での十二年の教諭時代の後、県教育センターでの二年間の研修を経て、桶売小の教頭に昇任し、好間四小、大野一小から九年後に上遠野小学校長の辞令を頂き、中央台北小、平二小の校長職を八年間全うしました。

退職後、吾峰会のいわき支部長として九年間、支部の行事の遂行に尽力し、いわき大会や役員選考委員会、本部の副会長として理事等に参加してまいりました。その間、本部や各支部の活動状況などを耳にし、当方部の活動に取り入りたいことなどが数多くありました。

支部においては、九方部を統合し、七方部となりましたが、年度当初の役員会では、あいさつの後、庶務報告、決算及び会計報告、吾峰会大会の報告や活動計画案、予算案や支部役員選考を協議しております。その他の活動としては、

会員の甲事には、花輪を贈っています。賀寿祝は、九十五歳の誕生日に事務局長と共に自宅に伺い、お祝いを贈呈しております。休まれている方が多い中で、かくしゃくと応対し、日常会話をこなす方もおられ、驚かされます。

支部長として、公私ともに大変お世話になりました。吾峰会の益々の発展を祈念しまして退任のあいさつといたします。(昭四〇卒)

新支部長としての抱負



大沼支部長
石井 幸雄

支部総会前の役員会で今年度は役員改選の年にあたり、支部長候補として名が上った。七月に開催する運びになっていた総会はコロナ禍で延期。八月末に行うことで会員へ再度通知したが、コロナウイルスの拡大は収まらず今年度の総会は、やむなく中止。支部会員の協議も承諾もありません。本支部は、平成十五年に念願の総会が初めて開催された。私は現職時に平成十年から三年間事務局を担当

前頁から

した。初代支部長となられた方のご自宅を何度か訪れたが、地区内の退職会員の把握に心血を注いで居られたお姿が思い出される。それから一旦大沼地区を離れ、再度現職で戻ってきた平成十五年から三年間二度目の事務局を担当した。きちんと整えられた退職会員の動向カードを基に名簿を作成して第一回総会が開催された。支部吾峰会を立ち上げようと長年努力された初代支部長さん。二代、三代の支部長さんも初代支部長さんと同じく支部発展にご尽力頂いた。今回、支部総会が延期になり中止になったのもかわらず、十三名の会員から近況報告と共に欠席の連絡があった。また、二十名程が総会並びに懇親会へ参加する運びとなっていた。丁重に開催中止のお詫びの通知を差し上げたところである。コロナ禍の大変な時期にもかかわらず、歴代支部長さんのご努力で太い絆で結ばれている大沼支部吾峰会であることを再認識できた。

本支部は、東部と西部に分かれた広い地区である。退職会員の高齢化が進んでいる。現職会員は学校統廃合で減少している。現状把握に努めると共に会員相互

の親睦を図っていくことは勿論、現職会員への支援など教育振興を目的に活動を広めていきたい。(昭四六卒)

支部長を退任するにあたって



前大沼支部長 児島 昌詮

平成十五年の第一回吾峰会大沼支部総会で副支部長に選任されてから約十七年間吾峰会と関わりを持たせて頂きました。お陰様で県大会では人生に関する貴重な講演を拝聴する機会に恵まれ、懇親会で旧友と再会し、学生時代のことを懐かしく語り合うこともできました。

小生にとつて最大の思い出は、第一回支部総会が、約四十名の会員の出席を頂いて開催できたことです。総会後の懇親会では、学生歌を歌い、酒を酌み交わし、初めて耳にする師範学校の校歌や紫雲寮歌に感動したことを先日のご様に覚えていています。

支部長を引き受けてからは、賀寿状の伝達や甲辞を捧げるといふ仕事も増えたのですが、会員の協力と役員の方々からの支援を頂

き、何とか務めることができました。「仕事に参加することは、会員としての義務である」は、ある先輩支部会員の言葉です。その先輩は、病で歩くことも困難になった晩年の支部総会にも出席され、懇親会では盃一杯の酒を口にするのが精一杯でしたが、最後まで信念を貫き通された方でした。私には、その真似はできませんが、今後は自分の身体と相談をしながら、一会員として行事に参加し、大沼支部の発展に尽くして参りたいと考えています。

末筆となりましたが、本部役員の方々、そして事務局の皆様方には、多大のご迷惑をお掛けしたり、ご支援をお願いしたりしましたことにお詫びと御礼を申し上げます。ありがとうございます。(昭三九卒)

支部長に就任して



西白河支部長 北林 正紀

三月の西白河支部理事会において、齋藤邦光支部長の後任として選出され、七月の総会の場で正式に承認されました。これまでは、

一理事として本支部の活動に携わっていただけで、したがつて、支部長としての責任の重さと責任ある活動を進めることの不安を抱えております。そのために、微力ではありますが、他の役員・事務局の方々や会員の皆様方のご支援とご協力を賜りながら、精一杯務めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

支部長としての最初の活動が、本支部の四名の新採用者に対する記念品贈呈式でした。夏季休業中ということで日程の都合により、野口意千朗副支部長と分担して訪問しました。勤務校の校長先生立ち会いの下、新採用者に記念品を贈呈し、その後、校長先生と新採用の先生と懇談しました。その中で、校長先生方からはどの先生も初任者研修などで多忙ではあるが、各校の勤務にすっかり慣れ、それぞれの個性を発揮して、職員間で大きな力となっていることを聞き、大変嬉しく思うとともに誇らしさも覚えました。また、先生方からは現在の大学の様子を伺い、教職員を目指す学生がとてもなく、就職先が多岐にわたっていることに驚かされました。

「吾峰」一四七号の峯島

和彦同窓会会長の就任挨拶に載っていたことが、現実であることを肌で感じ入った次第です。本支部においても高齢化が進み、支部会員の減少が続いております。さらに、コロナ禍により、会合や活動が設定できない状況ですので、会員同士の交流も十分でなく、今後の支部活動をどのようにするかが大きな課題となっております。(昭五〇卒)

支部長を退任するにあたって



前西白河支部長 齋藤 邦光

多くの方々に支えられ助けられて支部長の仕事を務めることができました。ありがとうございます。

六年間の活動を通して、私にとつては自分を振り返るよい機会を与えていただきました。その一つは、支部活動の中で西白河支部の学校に新採用で着任された吾峰会会員である先生方の学校を訪問することでした。校長先生同席の下で新任の先生へ記念品を贈り、お祝いと激励を行うものです。お会いした先生方は、新任とは思えないほど学校の中でしっかりと活動されてい

て、懇談もきちんと対応していただきました。これからの教育を担う若い力に大きな期待を感じました。そして、もう一つの活動である九十五歳を迎えられた会員への賀寿表彰の伝達です。自宅へ伺い、お祝いを申し上げ、近況をお聞きすると、しっかりと聞いたことばで、特に現職時代の話になると目を輝かせて昨日のことのようにその時代のこと、学校の様子、児童生徒のことなどを説明してくださいました。学校教育に全力で取り組んでこられた自信と誇りを強く感じました。これらの活動を通して、若い先生方との出会いから自分の新任当時から教員としてはどうだったのかを振り返るよい機会となりました。また、大先輩である先生方の姿から自分のこれからの生き方を見つめ直す機会を与えていただいたと思います。おわりに、新型コロナウイルスで多くの活動ができない中ですが本部役員の方々を中心に、静かに活動を進められていることを心強く思っています。各支部の活動も再開は近いと思います。これからも、一会員としてかわりをもっていきたいと思っております。ありがとうございます。(昭四二卒)

二〇二二年度 賀寿該当者 長寿おめでとうございます

今年度の賀寿贈呈該当者は、大正十五年四月〜昭和二年三月末日生まれの方です。

- ◎橋本 隆夫様 福島 菊池 俊吾様 いわき 石井 弘喜様
- ◎辺見 悦子様 西白河 末永 正夫様 福島 加藤 成子様
- ◎後藤眞太郎様 福島 鎌田 公子様 福島 門脇 エイ様
- ◎本田 忠治様 福島 石井 房様 福島 田子 良頭様
- ◎佐々木千代様 福島 鈴木 昭夫様 福島 林 信子様
- ◎若林 力様 福島 山本 ヤス様 福島 吉田 絹子様
- ◎鈴木キヨ子様 東白川 行方多利十様 会津 芳賀 英昭様
- ◎室井チトリ様 南会津 内田 利男様 岩瀬 加藤 繁子様
- ◎金木 和子様 福島 鈴木 雄一様 岩瀬 安斎 武喜様
- ◎浅沼 恒昭様 会津 鈴木 雄一様 岩瀬 渡辺 哲男様

◎は今回紹介された方 ※一四七号で伝達紹介した方やご逝去の方は省略しました。

橋本隆夫様 (福島)



足掛け十年ほど施設に入所して亡くなつたが、それ以前は母と共に長男の住むシドニーに十数年で寒で滞在し、退職生活を楽しく避けておりました。娘さんの談話

辺見悦子様 (西白河)



7月24日齋藤邦光支部長と賀寿祝儀達に行つてまいりました。辺見悦子様は、大変お元気で賀寿状とお祝いを自らお受け取りにられました。

末永正夫様 (福島)



伝達後の記念写真で、とてもお元気で姿を拝見しました。コロナ禍施設に入所されているため、カラスにお会いして来ました。

鎌田公子様 (会津)



女子師範卒業後、東北の中学校に勤務し、津南高等学校で退職。退職後、勤務会津南高等学校で退職。退職後、邪歌院つくりのため、娘さん達に伝達した。

門脇エイ様 (郡山)



川で群空の阿武隈川で、勤労動員と関係のお話。阿武隈川で勤労動員と関係のお話。阿武隈川で勤労動員と関係のお話。

本田忠治様 (田村)



子供たちと野山を散策し、植物採集・標本作りをしたことが、職場で心持よく残っています。お話を伺ったことが、職場で心持よく残っています。

※一月以降の方 伝達の写真やメッセージについては、次号に紹介します。ご了承願います。

鈴木熹子様 (東川)



初任校の近津小学校が男女別のクラスで、女子80名を担当しました。書道が好きで、今でも日記を書いています。

田子良頭様 (岩瀬)



木刀の素振りや毎日の奥様と一緒に散歩、そして、今でも何でも食することができるのが健康の秘訣と話されていました。

加藤成子様 (福島)



成子先生のご子息にお祝いを手渡しました。先生は寝たきりですが、ご子息がお世話をしております。食が細いことを心配されていました。

後藤眞太郎様 (福島)



また自分咲かせる全部の花が居る。話に全部の花が居る。話に全部の花が居る。

佐々木千代様 (福島)



師話な庭で撮影しました。師話な庭で撮影しました。師話な庭で撮影しました。

石井 房様 (郡山)



もの、退職後に青森まで指導に出かけたことなど、楽しく話されました。

林 信子様 (会津)



配属された。退職した。配属された。退職した。配属された。退職した。

若林 力様 (伊達)



このたびは賀寿の賜と深く感謝しております。このたびは賀寿の賜と深く感謝しております。

鈴木昭夫様 (会津)



野原が焼けた。野原が焼けた。野原が焼けた。

※石井弘喜様 逝去の報に接し、ご冥福をお祈り申し上げます。



△提供者：陶伸窯代表 藤田 伸朔さん (昭37卒 福島支部)
 △会 員：藤田 伸朔・我彦 武・我彦キミ子

仲間たちの「想い」発信⇄受信



△志賀伸子さんが絵本第2弾発行!!
 浪江から大阪に避難している志賀伸子先生が
 絵本の第2弾「カミナリおじさん」を出しました。
 (昭37卒 双葉支部)
 提 供 者：吉田弘見双葉支部長 (昭45卒)



△二 人：浅野 京子さん (昭55卒 伊達支部)
 長久保智子さん (昭57卒 福島支部)

▽佐藤 常さん(89歳)個展開く (昭28卒 福島支部)



△松田貞夫さん「創美展」に出展 (昭四五卒 福島支部)



支部長のバトンタッチ!! Ⅲ

「フレッシュユ安達」で 支部活動の活性化



安達支部長
高島 現

このたびの役員改選で役員が大幅に交代し、経験不足の小生ですが、宮前支部長さんの後任を務めることになり、その責任の重大さを痛感しております。

さて、吾峰会活動を考えて、どの支部でも直面する課題が、役員の後継者問題ではないでしょうか。時代は変わりましたが、かつては、退職後は年金が支給され、時間的余裕もありましたが、現在は六十歳を過ぎても再任用として勤務する時代です。さらに家庭においては、介護や孫育て、地域においては、会員の退職を待つて各種団体の担い手として、様々な活躍を期待されています。

このような状況の中で、会員に吾峰会活動に関心をもちたいは、安達支部では、再任用でたいへん忙しい多くの会員に、事務局員や支部の理事を引き受けていただくことができま

た。今後、持続可能な吾峰会活動をしていくためには、再任用の会員の協力が必要になってきます。そのため、「その程度なら、今の私でも協力できる」と思えるような無理のない活動にしていくこと、また「吾峰会って案外いいかも」と思えるような少しでも魅力的な活動に改善していくことでしょう。

現在、会報「あだたら」の発行、親睦・交流を深める総会後の懇親会(近年コロナ禍のため中止)、研究奨励事業に取り組んでいます。他の支部活動を参考にしながら、これまでの活動を見直して、工夫していきたいと考えております。会員の減少により、予算が縮小されるといふ厳しい現実もあります。新しい三人の副支部長さんが、「会報発行」「組織の改善」「二本松大会開催準備」等に熱心に取り組まれています。心強い限りです。

新役員が多い安達支部ですが、「フレッシュユ安達」で支部活動の活性化を目指す。を合言葉に、親睦・交流を大切に、年代を超えて、「吾峰人」としての仲間意識の醸成に努めていきたいと思っております。

(昭四六卒)

支部長を退任 するにあたって

前安達支部長
宮前 貢

支部長退任。このことについては、すごく悩みました。コロナ感染拡大が収まらない、本支部は、四年前、会費五百円を千円に値上げした、進む会員の減少傾向(平成二八年、五三〇、令和三年、四五〇。八十名減)、二年連続で総会ができない、こんな状況で、「辞める」なんていえないよな。

この思いを断ち切らせたのは、「九月十六日で、『満八十歳』でした。

支部が抱える様々な課題を思えば、「なんとかがんばって」という思いにもなりますが、いつ、どうなるかわからない年なんだし、若い方々に何とかバトンタッチをお願いして、さらなる支部活動の充実に継いでもらうことこそ大切なのだ、と決意しました。

とても気になった会員の減少傾向は、安達支部に限らず、各支部が抱える課題でしょうが、その実態はどうなっているのか、詳しいデータも知らないことに気づき、恥ずかしい限りです。コロナ禍により、評議員

会が二年連続で開催されない状況になっていきますが、開催できたときは、各支部の会員数の状況などをできるだけきめ細かにお示しいただき、吾峰会としてどう対処、支援していく必要があるかなど議論していくことが、今こそ緊急の課題のように思っています。

安達支部は、二年後の二本松大会開催地として予定されています。ぜひ、これからの吾峰会大会のあり方についてご検討いただきたいと心から願っております。安達支部長をお引き受けして、五年が過ぎました。これといった取組みもできないままの退任となりますが、本会事務局並びに各支部長の皆様に大変お世話になりましたことに心から感謝申し上げます。

ハガキ一枚分の便り

I

今日は、「大雪」です。師走を迎えて何かとご多忙のことと存じます。
過日には、感謝状を賜わりましたことに御礼申し上げます。2人の常任理事様と一緒に理事会の席でのことかと思ひ出席したところ、本部の正副会長様たりとの合同の贈呈式でしたので、驚いたり恐縮したりしました。すばらしい会場で厳格にそして和やかに贈呈式を催していただきましたことに感謝申し上げます。
校長職2校目から理事会に参加させていただきましたので事務局が福大附属小にあった頃のことや懐しい先生方との交流をたくさん思い出しいろい日になりました。峯島会長様はじめ事務局の先生方には、心の込もった会を準備いただきましたことに御礼申し上げます。そしてこの度は記念の写真を送りいただき重ねてありがとうございます。
最後に皆様のご健康と同窓吾峰会の益々の発展を祈念いたします。御礼まで かしこ

辻堂啓子さんからのお礼状

(ⅡはP⑩に掲載)



役員選考報告：宮前委員長
143号 P②

(昭三九卒)

今、教育行政に携わって

天栄村教育委員会
教育長 久保直紀

天栄村は、福島県中通り南部に位置し、古くから中通りと会津を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。東西の距離が約三十六キロメートルに及び、村の中央に分水嶺をなす鳳坂峠があり、この峠を境に村内の気候、風土は大きく二分されます。西部には、温泉、オートキャンプ場・ゴルフ場・スキー場など多くのリゾート施設が立地しています。東部は、肥沃な耕地が開けた農村地帯となっており、そこで作られる米や酒は毎年全国の品評会で金賞を受賞するなど中心となる産業となっています。



オンライン英会話レッスン

本村教育委員会では、「村はひとつ、学校はひとつ、願いはひとつ」地域コミュニティを核とした天栄だからできる「少人数教育」を基本理念に、「学校・家庭・地域との連携による教育の充実に向けた4本柱」として、「天栄型コミュニティスクール」・「愛村心を育むふるさと教育」・「英語の村でんえい」・「つなぐ教育」を推進しています。主要施策の二つを紹介し

ます。まずは「英語の村でんえい」です。セブ島外国人教師とのオンライン個別英会話レッスン。プリティッシュヒルズと連携した異文化体験。神田外語大学や早稲田大学の学生との英語交流活動。さらには、小学生まで含めた英語検定受験料全額補助など。外国の人を含めたいろいろな人たちと積極的にコミュニケーションを図る態度や能力を育て、グローバル化に対応した人材の育成を目指しています。

二つ目は、平成三十年度に加えた「愛村心を育むふるさと教育」です。子どもたちが自分の地域を誇りに思ったり、愛着心を持つたりすることは、自信や向上心といった内面的な土台となります。本村の子どもたちには、郷土愛をもっていろいろな世界で活躍できるように人材に育ってほしいと願っています。そのため、前述の活動に加え、今年度も学校間でのオンライン交流、外部講師(学習塾)による特別学習、プロの映画人の指導を受けながらのショートムービー製作などいろいろなメニューを用意して、子どもたちに取り組ませています。ここで身に着けたものを生かして大きく羽ばたき、できれば将来の担い手になって本村に帰ってきてくれればと考えています。そのため、欲張って様々な取り組みをしようというのが本村教育委員会の姿勢です。

「村はひとつ、学校はひとつ、願いはひとつ」とは武田國男元教育長が残してくれた言葉です。地域に根差した、より質の高い教育を継承・実現すべく、教育行政に真摯に携わっていきたいと思います。(昭五七卒 岩瀬支部)

特別寄稿

福島学院大学教授
佐藤昌彦

東日本大震災・原発事故と教育の未来像

二〇二〇(令和二)年三月、私は北海道教育大学(札幌市)を定年退職し、ふるさと福島に戻りました。二〇二一(令和三)年四月から福島学院大学で造形教育や教育実習に関する授業を担当しています。二〇二二(令和四)年は、東日本大震災・原発事故から十一年になります。原発処理水・放射性廃棄物の最終処分場など、多くの問題が未解決のままです。廃炉作業も続いています。原発は人間がつくったものです。ものをつくることにかかわってこれから何を大切に考えて子どもの前に立てばいいのでしょうか。二〇一一(平成二十三)年三月十一日の大地震で母が避難所に移ったとの連絡を受け、急ぎよ、十二日には新千歳空港から福島に向かいました。到着して間もなく、福島原発が爆発。以後、大地震による飲料水や食料の欠乏に加えて、放射性物質の放出による屋内退避、避難準備、ガソリンの不足による避難断念など、

様々な緊迫した状況の中で過ごすことになりました。事故の原因について、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』(徳間書店、二〇一二年)には、直接の原因は地震・津波、根本的原因は「いのちを守るという責任感の欠如」と記されました。では、東日本大震災・原発事故を踏まえて、前述した問いにどう答えればいいのか、私自身は次のように考えています。**いのちを基本とする教育** いのちを基本とする教育とは、いのちに及ぼす影響に配慮して、よりよい生活環境を創造する人間の育成を意味しています。原点はこのうち、最終的な課題は多様な現場での実践と言いますこともできます。それでは、いのちを基本とする教育を具現化するために、ものをつくることにかかわってどのような教育を目指せばいいのか、自然と対立する造形教育ではなく自然と馴染む造形教育を目指すということでしょうか。人間は自然の一員であり、自然に支えられてこそ生きることが出来るからです。自然と馴染む造形教育の要となる問いを次に示しました。原点(手づくり)から最先端(AIやIoTなど)までという原発をも含むものづくり全体にとっての重要な視点となります。**■自然に逆らっていないか** **■自然に無理をかけていないか** **■自然の理にかなっているか** ものづくり全体の根底には「責任」を位置づけ、造形性、創造性とともに、人間性へもいつそう眼差しを向ける必要があるでしょう。教育の未来像。具体的な手立てとともに、それを福島から発信したいものです。
*昭和53年3月卒業、福島支部。北海道教育大学名誉教授、福島学院大学教授、博士(学校教育学)
教育の未来像に関する著書
佐藤昌彦「次世代ものづくり教育研究」日本人は責任の問題をどう解決するのか「学術研究出版」二〇一九年



吾峰人のお名前

見ました 聞きました I

(敬称略) ㉟:新聞、㉠:テレビ、㉡:その他

① 千葉 麻美

② 青木 淑子

③ 高橋 正人
④ 鈴木 淑子

⑤ 懸田 弘訓

⑥ 和合 亮一

⑦ 菅野 一枝

⑧ 菅野 善昌

⑨ 大木 修

⑩ 遠藤 雄幸

⑪ 佐藤 秀美



青木淑子氏
TVローカルニュース



大木 修校長
TVローカルニュース

⑦「菅野 一枝」
⑧「菅野 善昌」
⑨「大木 修」
⑩「遠藤 雄幸」
⑪「佐藤 秀美」

⑫「千葉 麻美」
⑬「青木 淑子」
⑭「高橋 正人」
⑮「鈴木 淑子」
⑯「懸田 弘訓」
⑰「和合 亮一」
⑱「菅野 一枝」
⑲「菅野 善昌」
⑳「大木 修」
㉑「遠藤 雄幸」
㉒「佐藤 秀美」

⑫「千葉 麻美」
⑬「青木 淑子」
⑭「高橋 正人」
⑮「鈴木 淑子」
⑯「懸田 弘訓」
⑰「和合 亮一」
⑱「菅野 一枝」
⑲「菅野 善昌」
⑳「大木 修」
㉑「遠藤 雄幸」
㉒「佐藤 秀美」



遠藤雄幸村長
TVローカルニュース



佐藤秀美校長
TVローカルニュース



佐野光洋校長
TVローカルニュース



千葉英一校長
TVローカルニュース

⑫ 小川 洋太郎

⑬ 佐野 光洋

⑭ 千葉 英一

⑮ 小野 恭雪

⑯ 故朝倉 悠三

⑰ 目黒 満

⑱ 高谷 理恵子

⑲ 小野寺 寛

⑲ 坂口 洋一

⑲ 伏見 珠美

⑲ 津田 智

⑲ 井沼 千秋

⑲ 渡辺 知子

⑲ 金子 恵美

⑲ 伊藤 栄

⑲ 佐藤 常

⑫「小川 洋太郎」
⑬「佐野 光洋」
⑭「千葉 英一」
⑮「小野 恭雪」
⑯「故朝倉 悠三」
⑰「目黒 満」
⑱「高谷 理恵子」
⑲「小野寺 寛」
⑲「坂口 洋一」
⑲「伏見 珠美」
⑲「津田 智」
⑲「井沼 千秋」
⑲「渡辺 知子」
⑲「金子 恵美」
⑲「伊藤 栄」
⑲「佐藤 常」

⑲「熱い『山城愛』発信へ」30、31日全国サミット、桑折町職員の井沼さん
⑲「新聞投稿」気迫に満ちた白鵬関の取組
⑲「第49回衆議院選」小選挙区福島1区金子さん接戦制す「政治を変える」気概
⑲「開運」なんでも鑑定団」に鑑定依頼人として出演
⑲「佐藤さん16日から日本画展」展覧

⑲「開運」なんでも鑑定団」に鑑定依頼人として出演
⑲「佐藤さん16日から日本画展」展覧

⑲「熱い『山城愛』発信へ」30、31日全国サミット、桑折町職員の井沼さん
⑲「新聞投稿」気迫に満ちた白鵬関の取組
⑲「第49回衆議院選」小選挙区福島1区金子さん接戦制す「政治を変える」気概
⑲「開運」なんでも鑑定団」に鑑定依頼人として出演
⑲「佐藤さん16日から日本画展」展覧

⑲「熱い『山城愛』発信へ」30、31日全国サミット、桑折町職員の井沼さん
⑲「新聞投稿」気迫に満ちた白鵬関の取組
⑲「第49回衆議院選」小選挙区福島1区金子さん接戦制す「政治を変える」気概
⑲「開運」なんでも鑑定団」に鑑定依頼人として出演
⑲「佐藤さん16日から日本画展」展覧

次頁へ



- 11 「大久保小、心に刻む」閉校記念式典⑤校旗を受け取る古関明善福島市教育長。あいさつ関口和夫元大久保小学校長
- 12 「来年は12秒台目標 大内さん入賞報告」全国陸上福島市長に⑤同席者：菅野信幸吉井田小学校長、菊田明博福島大トラックコーチ
- 13 「福島中国交流史学会報No.12」②会長：小島喜一、副会長：千葉 茂、幹事：伊藤 惇、伊藤 正、伊藤末吉、佐藤支一、渡辺秀雄
- 14 「文化活動支え50周年」二本松文化団体連絡協が式典⑤伊藤末吉会長が松本英夫前会長に感謝状を贈る
- 15 「青木小、思いで永遠に」閉校式で校旗を返還⑤古関明善福島市教育長・佐藤厚生元青木小学校長があいさつ
- 16 「県内画家ら表現競う」福島で県美術協会展開幕⑤一般の部佳作マツダ絵具賞齋藤吉成、会友の部特選福島民報社賞長久保智子、協会長酒井昌之談話
- 17 「地域活性化への研究 県信用保証協と協定」福島大⑤三浦浩喜学長協定書交わす
- 18 「八丁目宿」を解説⑤歴史、にぎわい、文化。福島市松川で講演会⑤講話者柴田俊彰
- 19 「北信中の佐藤さん 最高賞受賞を報告」全日本発明工夫展⑤古関明善市教育長へ報告
- 20 「生徒の悩み 親身に相談」元養護教諭 森さん文科大臣表彰⑤福島大で授与式。授与者三浦浩喜学長、同席者横島 浩福島大附属中学校長
- 21 「漢字の世界おもしろい」クイズやゲーム⑤古代文字で名前を③のコーナー 洪沢 尚福大学類教授
- 22 「花いっぱいコンクール表彰式」緑化活動たたる醸芳小などに表彰状⑤醸芳小の校長と丹治恵美教諭受け取る
- 23 「洪沢栄」と本県のエピソードを紹介⑤福島・吉井田歴史愛好会⑤11/31講師・柴田俊彰日本考古学会員

あれから十年半

どんな困難に対しても、子どもたちの成長につながるために

福島市立中野小学校 校長 白土 勲



二〇一一年三月十一日、午後二時四十六分、マグニチュード九・〇、最大震度六強の未曾有の大地震が起きました。当時、私は、いわき市立平第一小学校で三年生を担任しており、子どもたちを下校させることができました。昇降口を出た瞬間に、今まで経験したことのない揺れを感じました。動揺を抑え、何とか冷静さを取り戻そうとするのが精一杯だったことを今でも鮮明に覚えています。校舎の窓ガラスが割れる危険性があつたので、すぐに子どもたちを校庭の真ん中に避難させました。すると、正門



大震災 平一小正門支柱倒壊

の柱が音を立てながら真ん中から折れました。恐怖に怯え泣き叫ぶ子どもたち、遠くから聞こえるサイレンの音、何をどうすればよいのか冷静に考えることができず、子どもたちをとにかく必死に守ろうとしたことだけを覚えていきます。その後、放射線への対応等、子どもたちの安全・安心を守りながら教育活動を進めていくことは、簡単なことではなく、教師人生の中で最も大変な時間であったことは間違いありません。あれから十年の月日が経ち、私は校長として、福島市立中野小学校に勤務させ

ていただいております。東日本震災から十年が経つた今、またもや大きな課題に悩まされています。新型コロナウイルス感染症です。様々な行動制限を余儀なくされ、感染対策を十分に行い、内容を大幅に変えて教育活動を実施しなければならぬ状況が続いています。そのような厳しい状況の中、新任校長として着任し、教育活動をどうしていけばよいか悩んだ時に、自分のベイスになったのは、間違いなく東日本震災を乗り越えることができた経験でした。

あの時も、今まで経験したことのないことを、周りの先生方と考えながら必死に乗り越えようと取り組む、子どもたちの笑顔を作れるように努めました。ここ中野小学校でも、子どもたちにとって、人生でたった一度きりの小学校生活を、先生方と一緒に教育活動を進めていけたらと思います。校長があきらめたら、全ておしまいです。どんな困難に対しても、子どもたちの成長につながるように、そして、子どもたちや先生方に夢をもってもらえるような校長になれるよう、今後も邁進して参ります。(平一七院修 福島支部)



登校時の検温(中野小)

若い教員の奮戦記

二年目を迎えて

只見町立只見小学校教諭

千葉 皐 嗣

「スポンジのように、何でも吸収するね。」

高校の野球部顧問に言われた一言だ。指導されたことをすぐに理解し、技術を高めていく様子を表した言葉だと教えられた。

初任の一年間は、仕事を覚えることで精一杯だった。小規模の学校であったこともあり、多くの仕事に關わることができた。初任者研修では、学習指導や生徒指導などの研修に取り組み、常に学級の子どもたちの姿を思い浮かべながら、自分がどのように関わっていくべきかを考え、実践を重ねてきた。また、先輩の先生方の授業を参観し、子どもへの思いを引き出す指導を学ぶことができ、現在の指導に生かすことができています。

二年目を迎え、さらに多くの仕事に關わることができ、充実した毎日を送っている。また、大学を卒業したばかりの新たな初任者を迎え、様々なことを伝える立場となった。そこで、自分には何が伝えられるか、これまでを振り返り、自身

を見つめ直してみたいと思う。

今年度、五・六年生の複式学級を担任している。素直で、少し内気な子どもたちである。昨年度、四・五年生の担任で、そのまま持ち上がったが、今年はほとんどの授業をもつことになった。特に、国語科と算数科で複式指導を行っており、二学年にわたったり、指導のタイミングをずらしたりするといった指導をしている。二学年分の教材研究をし、子どもたちが自分たちで学習を進めることができるよう、日々、授業づくりを力を入れている。系統性のある単元で二学年の同時導入をしたり、間接指導で学習リーダーを設定し、子どもたちで議論したりすることで、活気ある学習ができていくが、学力の定着という点ではもう一歩であると感じている。

教材研究に時間をかけ、子どもたちが生き生きとした表情で学習に取り組む姿が見られると、教員としての喜びは格別である。やはり

り、学びの主役は子どもたちであり、その子どもたちの思いや気付きを引き出し、広げることが、自分の役目であると痛感している。初任者に対しては、自分が苦勞してきた事務作業などを教えている。同じ若手として、一緒に悩み、問題解決することで切磋琢磨している。子どもに寄り添う姿や一生懸命取り組む姿を見ると、自分の初心を思い出し、若さを生かして頑張っていくという気持ちになる。教えてもらうだけでなく、伝えることも自分の学びになる。謙虚さを忘れず、学び続ける教員として、理想の教師像に向かって努力していく。(令二卒 南会津支部)



筆者(左)と落合教頭(右)

おでんの大根

只見町立只見小学校 教頭 落合 和将

千葉先生は、初任者とは思えないほど地に根を張り、強い芯をもった大根だ。

「つながる」「むすぶ」「広げる」

便りさまさま

【Eメール】

つくばの菅野智明です。この度は、貴紙『吾峰』第一四七号を御恵贈くださり、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

吾峰会の役員の方には、今般、各職において随分と交代が進んだものと拝察いたしました。

最終頁の「記念撮影」では、先生をはじめ、新旧学類長の初澤先生、朝賀先生、熊田先生や宮前先生のお姿も伺うことができました。大変懐かしかったです。宮前先生のご寄稿や、熊田先生の表彰式報告も興味深く拝読しました。

校長先生の佐藤秀美先生には、附属小学校にお勤めの頃、実習生の指導を中心に大変お世話になりました。

子供たちや職員との生活の中で学んだことを自分の味としてきた。これからも自分らしく学んでいって欲しい。おでんの代表的な具でありながらも、誰からも慕われる味わい深い先生になるのだから。

(平一四卒 南会津支部)

て、別添のとおりにお送りいたします。原稿データと写真データの2つを添付しています。写真については、依頼文に「顔写真」とあったのですが、内容と関連のあるものの方が良いだろうということで、この写真となりました。何かありましたら、ご連絡をお願いいたします。

なお、一応、印刷したものを平野広報部長にも送付しました。

須賀川市立白江小学校長 岩瀬支部事務局長 善方 威浩

いつも大変お世話になっております。浪江町から大阪に避難している志賀伸子さんが、絵本の第二弾「カミナリおじさん」を発刊しました。

私宛に数冊送られてきましたので、そのうちの一冊を吾峰会広報部長様に贈呈いたします。会報「吾峰」で紹介するのもいいかなと思います。よろしくお願います。

R3. 9. 18 吉田 弘見

会報「吾峰」第148号の原稿および写真のデータ送付について

事務局 梅津様

いつもお世話になっております。標記につきま

長いことお世話になりました。平野先生にお会いできて本当によかったです。私も八十歳を前にして体のあちらこちら綻んできました。

どうか先生には、お元気で本部役員としてご尽力下さい。峯島会長さんには、会津教育事務所長のお世話を話になりました。宜しくお伝え下さい。持地先生とは、檜枝岐で一緒でした。梅津さんには本当にお世話になり、頭が上がりません。そのうち、またお会いしましょう。

2021・10・4 児島 昌詮

吾峰人の「随想」

新聞紙上に見ました

P⑫の「お名前見ました」聞きました」に紹介した和合亮一さん、鈴木淑子さん（福島県内の地方紙）、小野寺寛さん（岩手県内の地方紙）の随想を縮小して掲載しました。和合さんの「ふるさと夕暮れ 福島だよ」とは縮小率が高く下二段を省略してあり、さらにカラー部分がモノクロになっています。ご容赦願います。

なお、新聞紙上の投書欄にも、渡辺知子さん、小野恭雪さん、高橋正人さんの文章が目にとまりました。



南相馬市の駅から徒歩で5分の場所に、「朝日館」という閉館して30年ほどたった映画館がある。実は私語の教師として初めてこの地に赴任したばかりの年であった。

心のフィルムこぼ

この館と映画を愛する地元の有志の人々などで短期の上映会やイベントが、その後も行われてきた。何度も出かけたことがある。上映後のトークショーやゲストとして、スクリーンを背にして登壇させていたこともあった。

最初に担任した先生の一人の高平大輔君は、その映画館の隣で「あさひ食堂」を営んでいた家の息子さんである。今は仙台市でM制作や映像ディレクターの仕事をしている。大きなプロジェクトを任せられたりして頼もしい限りである。

幼い頃は時折、顔パスで映画を見させてもらっていた。その豊かな感性



随想

このタイトルの頭に「赤信号を付けて」赤信号皆で渡れば」とすれば後は自然に「怖くない」と続く。当時このシヨークは相当受けたから皆さんもご存じのはずだ。一見悪ガキの宣言に似て罪のないイタズラのようにみえるが、実は社会構造の真実を踏まえているから笑ってはかりられない。少し想像を巡らして考え



鈴木 淑子

福島市・雑文書き、県現代詩人会会員

皆で渡れば

てみよう。学校近くに交差点があるとして。日中は静かな住宅街だから下校時の学童たちは信号を気にせずぞろぞろと群れになって渡り始めた最初の日は誰が走って来て手さえ渡れば皆が歩いて行くことは上げれば止まってくれる。そういふ場所である日巨大トラックが突っ込んで大惨事になったとする。誰が悪いか。現場の惨状からして運転手が罪に問われるのは当然だが、彼もまた被害者である。この迄の話は想定

なかつたのだから、その子が悪い。それは誰？ それじゃ一緒にくっついて行っ他の子どもたちはどうなっている？ 悪くないという信号を無視して事故に遭ったのは皆の所為よ。皆に誰なのさ！ 皆って。にされたことだから。

皆が誰と特定できない群れ。集団を指す言葉だが、この正体不明な「皆」は実は恐ろしい力を秘めている。群れの中にあること安心するのは動物の本能みたいなもので人間にもその性が残っているのかもしれないが、我々も度々「皆」に翻弄されている。

例えば「桜を見る会」。あれは完全に無銭飲食である。個人であれば即座に逮捕される罪である。それなのに参加者が大勢であるが故に誰一人罪を犯したなどとは思わない。皆のよう

新しいところで日大背任事件がある。日大ラグビー部事件の時も今回も大学側の「皆」による鉄壁の隠蔽の堅さで逃げ切ろうとした。もっと言うなら大学入試の際、女子にはハンディを課すという伝統？ これなども「皆」の了解の許に行われてきたことである。私のような戦争経験者は皆を「国家」という名に換えて今ではお笑いのネタのようなことを強制された。米兵には竹槍をもって戦え。焼夷弾の火はバケツリレーで消せ。笑わないでおくれ。皆真剣だったんだから。

好日雑想

「薔薇二本」一本は花大にして一本は小

誇らず 小を 恥せず 共い力 けるが美 恵雨 数十年 前、知人 からいた だいた阿 部東見遺 稿集『薔薇二本』を読み返し、深い感動につつまれている。魂に響く言葉に満ち満ちている。

奥州山麓に開ける広大な胆沢平野の西部に位置する旧若柳村が阿部の母の古里である。西に駒ヶ岳・焼石岳が高く聳え、朝な夕なに仰ぐ古里の象徴として消えることがない。両岳を源流とする清冽な胆沢川。此の川は胆沢扇状地の灌漑用水、発電用水、飲料水であり、住民の血であり命である。

またこの川は子どもの唯一の遊び場でもあった。夏は丸裸でカニカサカ、アユを追い、土手の川原グミ・野イチゴ・山ブドウなどをとって食べ、甲羅を乾かしては水に入り、

薔薇二本

小野寺 寛

全く自然の中で喜びを満喫したもの。この山川だけは昔の面影を残しており、育ちの親の感が深くなつかしい。

阿部さん（明治42年2月生）は、県立水沢農学校、岩手師範学校卒業後、佐倉河尋常高等小学校、若柳国民学校、西掘切小学校、黒石中学校、南都田中学校で、教諭・教頭・校長を務める。金子みすゞの真蹟も多

「私と小鳥と鈴と」私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速くは走れない。／私が体をゆすつても、／きれいな音は出ないけど、／あの

鳴る鈴は私のように／たくさんな頃は知らないよ、鈴と小鳥と、それから私／みんなちがって、みんないい。

「私とあなた」が作品のなかで「あなたと私」にひっくり返っている。すべてのものを丸ごと受け入れる人生観、世界観、生命観、宇宙観である。人類の理想といえる。

現在画一化を求められ、競争競争、ガンバレガンバレと追い立てられる子どもたち、いらいらだちが広がっている。「みんなちがって、みんないいのだ」とみすゞさんからの語りかけられることで、どれだけ多くの子どもたちの心が癒やされ、自分を取り戻したことが、みすゞの言葉は、果てしない深い宇宙観があり、その優しさや、柔らかさや、おたやかしには多くの人がはっと感じ、角張ったことはなくなると、人々にこたましてくれる。

阿部先生やみすゞの言葉は、私の人生を支える詩である。名もない路傍の雑草にも似ているが、死という暗い陰が見えず、明るい希望の光が見えるというところは有り難く尊いことである。

(水沢字多賀)

吾峰人のお名前

見ました 聞きましたII

(敬称略) ㊟:新聞、㊠:テレビ、㊡:その他

30 瀬戸 和子

31 平子 宗司

32 武内 雅之

33 伏見 俊哉

34 瀬戸 和子

24 「平和の尊さ 広島で学ぶ」〜大玉 小中学生派遣の団 結式〜㊟12/25 あいさつ…佐藤吉郎教育長

25 「保原高同窓会が寄付」〜21日贈呈式挙行〜㊟12/25 同席・高橋文彦校長ら

26 「演奏映像DVD医療機関に配布」〜福島・大森 小中高生、感謝込め〜㊟同席・斎藤剛信夫中長

27 「福島大教授5人が退職へ」㊟生島浩人間発達文化学 類教授、五十嵐敦教育推進機構教授

28 「聖火リレーの記録刻む」〜川俣に記念モノコメント 除幕式〜㊟4/1/11出席者…佐久間裕晴教育長



伏見俊哉氏
TVローカルニュース



瀬戸和子校長
TVローカルニュース

慎んでお悔やみ申し上げます

吉岡 榮一様 元本部副会長、元いわき支部長
鈴木 信光様 元本部事務局長、元本部理事

ハガキ一枚分の便り II

コロナ禍に 巡る秋の色 我が身に染み入る・・・
あれから一年半、日常が非日常となり得るはかなさを実感。ウイルスとの共存の歴史を知り、少しは謙虚に生活したいと思うこの頃です。

今日は、役員退任感謝状贈呈式にご案内いただきまして、誠にありがたく、感謝の念でいっぱいです。エルティの立派な会場、準備万端整えられ、多くの役員理事の皆様方の見守りの中での贈呈、感激でした。ケーキとコーヒー美味しかったです。今後は、一会員として側面からご協力を申し上げる覚悟です。吾峰会と皆様のご健勝ご発展を祈念して、御礼といたします。

令和3年11月18日



「深秋の彩：ナナカマド」(スカイライン夷平駐車場) 2021.10.4

わがわが、吾峰会会報をお届け下さりありがとうございます。再度拙いハガキを掲載していただき恐縮しております。先王のお力添えで、母校の広報にご縁をいただいたこと私にとりまして思いがけない出来事でございます。心が残るうやうやしいプレゼントとなりました。心よりお礼を申し上げます。

今年度でのご退任と伺い、驚きと共に残念な気持ちでございます。でも今までの多くのご苦勞をお引き受けになられたことをお察し、「お疲れさまです」と、そして長い間、本多にありかたを「お疲れ」と申し上げます。

これからもう、ご健康に留意されて、活躍下さいませ。お健康な毎日をお送り下さいますように。



菊池千代子 (西白河支部)

柳沼 秀雄 (郡山支部)

編集後記

▽「コロナ禍」令和四年二月現在では、オミクロン株の感染拡大に心を痛めている状況である。今年度も本会諸事業の中止で、会報の役割がますます重くなっていると感じながら編集してきた。

▽P②には、須賀川大会中止に至る経緯と本部役員前任者への感謝状贈呈式を紹介できた。

▽前号で本部役員の会長・副会長三名の交代を紹介したが、今号は支部長の交代と新旧支部長のメッセージ(栗原支部を除き六支部十二名)を紹介できた。前任者に感謝し、新任者には課題が多い支部活動に新たな手腕発揮が期待される。

▽「お名前見ました」よりも多くの吾峰人をタイムリーで紹介したので、IIに分けたが反省点である。

▽それぞれ力作・玉稿を頂いた方々に感謝して、会員一人ひとりに「つなぐ」・「むすぶ」・「広げる」の絆が共有できるものと思う。

▽来年度には、百五十号に到達する。多くの吾峰人の声が交換できることを願う。

(編集子の「つぶやき」)

・会報「吾峰」第一四八号
・発行者…(会長)峯島和彦
・発行日…令和四年二月一〇日
・編集委員長…(広報部長)平野哲哉